

東京家政大

神野 節子

1. 目的: 靴下の悪臭を追放し、靴内を衛生的に管理するための基礎実験として、靴内汚染微生物の実態について知らうとした。その靴内汚染微生物の実態については未だ充分解明されていない。今回は婦人靴内の汚染微生物—細菌—を中心に靴底汚染細菌数を右足と左足、爪先と踵と比較した生菌数とその種類について報告する。
2. 方法: 靴の底の部位を爪先と踵とに分け、5×5cmの抜き取り枠を用いてガーゼポンプで抜き取って菌を採取し、リン酸緩衝生理滅菌水を用いて菌の浮遊液を作製し、希釈して、生菌数は標準寒天、大腸菌群はデソオキシコレート寒天を用いて算定した。さらに分離菌については常法により菌の鑑別同定を行った。
3. 結果:
 - 1). 靴の部位によるあるいは右足と左足との菌数: 爪先と踵、右足と左足の菌数の差異は個体差によるもので、まちまちな結果であった。
 - 2). 30検体の婦人靴の底1cm²当りの平均生菌数は約 10^7 であった。
 - 3). 靴からの分離主要菌: *Micrococcus*, *Staphylococcus*, *Corynebacterium*, *Karstia*, *Acinetobacter*, *Citrobacter*, *Proteus*, *Pseudomonas*.